

## 9 日ロ地先沖合漁業交渉

日本とロシアとの間では、昭和59年(1984年)12月に成立した「地先沖合漁業協定」に基づき、毎年、操業条件について日ロ漁業委員会が決定し、相手国200海里水域内に入漁しています。

平成19年12月の日ロ漁業委員会第24回会議では、ロシア国内の漁業制度が自国水産業の育成を重視する方向に見直され、資源管理が一層強化されている中での厳しい交渉でありましたが、最終的に前年とほぼ同量である5万7千163トンの漁獲割当量を確保しています。

### (1) 平成20年(2008年)の合意内容

#### ① ロシア200海里水域における日本漁船の操業条件等

##### ア. 相互入漁

- ▶ 総漁獲割当量 51,953 トン
- ▶ 総隻数 549 隻

##### イ. 有償入漁

- ▶ 総漁獲割当量 5,210 トン
- ▶ 入漁料 2億1,300万円
- ▶ 総隻数 45 隻

##### ウ. 追加協議

- ▶ 西ベーリング水域で追加割当が生じた場合、日本漁船への配分を最優先に協議。

<主な魚種別の漁獲割当量> ※( )内は追加割当量 (単位:トン)

魚種	平成19年(2007年)		平成20年(2008年)	
	相互入漁	有償入漁	相互入漁	有償入漁
スケトウダラ	4,704	3,000	4,752	3,000
カレイ	48	450	48	450
メヌケ	7	164	15	165
マダラ	537	190	537	190
サンマ	35,500	-	35,500	-
ホッケ・アイナメ類	223	320	223	320
コマイ	-	1,000	-	165
イカ	9,245	760	9,645	760
タコ	43	50	43	50
カタクチイワシ	100	-	100	-
その他の	890	90	1,090	110
計	51,297	6,024	51,953	5,210
	57,321		57,163	

#### ② 日本200海里水域におけるロシア漁船の操業条件等

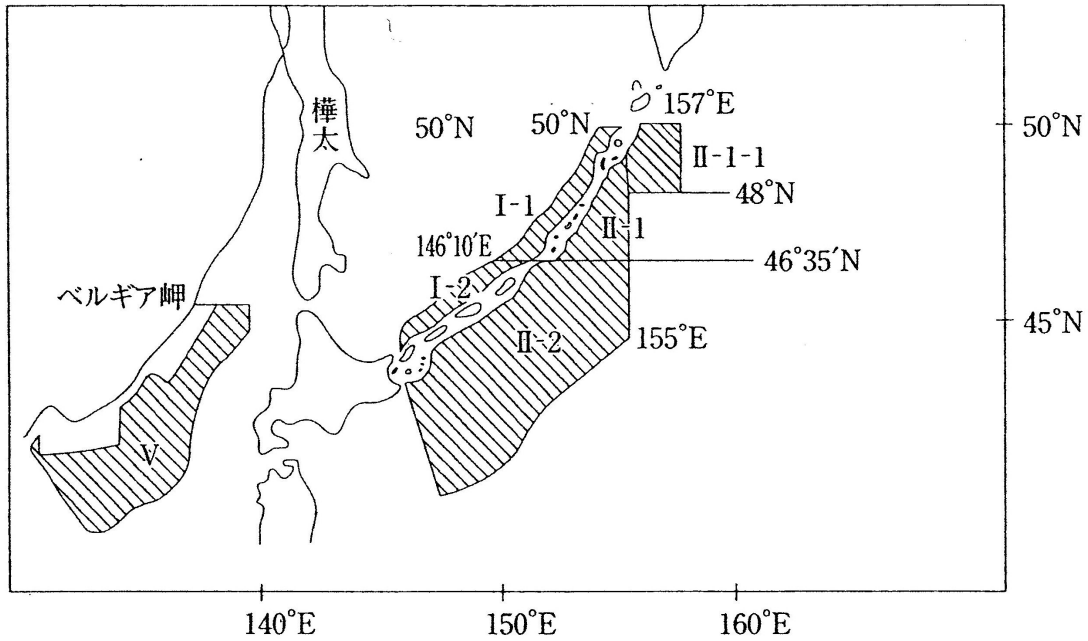
##### ア. 相互入漁

- ▶ 総漁獲割当量 51,953 トン
- ▶ 総隻数 104 隻

<主な魚種別の漁獲割当量> (単位:トン)

魚種	平成19年(2007年)	平成20年(2008年)
イワシ・サバ	10,947	12,200
イトヒキダラ	27,350	27,800
サンマ	13,000	11,953
その他の	-	-
計	51,297	51,953

(2) 日口地先沖合漁業交渉操業海域図



○	相互入漁水域	
I-1区	千島（オホーツク海側北）	底はえ縄
I-2区	千島（オホーツク海側南）	底はえ縄
II-1区	千島（太平洋側北）	中層トロール、底はえ縄、棒受け網
II-1-1区	千島（太平洋側北）	中層トロール、着底トロール、底はえ縄
II-2区	千島（太平洋側南）	底はえ縄、棒受け網
V区	日本海	いか釣り
○	有償入漁水域	
II-2区	千島（太平洋側南）	着底トロール、中層トロール

資料：北海道水産林務部漁業指導課

注：II-1、II-1-1、の中層トロール・着底トロールは、遠洋底びき網、  
II-2の着底トロール・中層トロールは、沖合底びき網